

「平成 26 年度普及に移す成果」

小麦「さとのそら」の主稈長による莖立ち期、 幼穂長による出穂期予測法



農業総合センター農業研究所

日本めん用小麦「さとのそら」において、主稈長・主稈幼穂長を測定することで、莖立ち期・出穂期を予測できるようになりました。麦類の高品質安定生産には、生育ステージに応じた適正な栽培管理が重要となります。予測結果を活用し、麦踏み・追肥・赤かび病防除等の作業計画作成に役立ててください。

莖立ち期は主稈長、出穂期は主稈幼穂長から予測

主稈長や主稈幼穂長を測定することで、日平均気温（アメダス）データを用いた回帰式により、莖立ち期・出穂期が予測できます。

※莖立ち期：主稈長が 2 cm になった時期

※出穂期：全茎の 40～50% が出穂した日

予測の方法

表計算ソフトを用いて簡単に予測できます。予測用ファイルは、「莖立ち期予測用」と「出穂期予測用」があります。農業研究所ホームページからダウンロードしてください。

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72				
73				
74				
75				
76				
77				
78				
79				
80				
81				
82				
83				
84				
85				
86				
87				
88				
89				
90				
91				
92				
93				
94				
95				
96				
97				
98				
99				
100				

莖立ち期・出穂期予測のための表計算ソフト操作画面（図は莖立ち期予測用ファイル）

- ①品種を選択（県内主要 4 品種に対応）。
- ②最寄りのアメダス地点を選択。
- ③主稈長・主稈幼穂長の測定日を選択。
- ④主稈長・主稈幼穂長をmmで入力（予測可能な最小値は「1 mm」）。
- ⑤気象経過（日平均気温の平年比、0.1℃刻みでプラスとマイナスが選択可能）を選択。
- ⑥「計算ボタン」を押して、計算を実行。
- ⑦予測結果が日付で表示。

予測ファイル使用上の注意点

- ・エクセルのマクロを有効にするとともに、ファイル名を変更せずに保存してご利用ください。
- ・栽培場所がアメダス観測地点から遠い、極端な早播きや晩播、湿害・病虫害等により生育に異常が認められる場合には、予測精度が劣る可能性があります。